

が意欲的に取り組むことが大事であり、その意欲を損なうことのないよう十分配慮することが大切である。

共同研究の場合、個人が全体の中に埋没しないように役割分担をしたり、学年や教科部会を積極的に活用したりすることが効果的である。

(6) 「研究テーマ設定」の視点から

- 一人一人の教員が意欲的に研究に取り組めるようにしていくためには、十分な話し合いができる時間を確保して、目の前の子どもにとって本当に必要な研究課題を洗い出し、そこから研究テーマを設定したり、共同研究にするか、個人研究にするかを決定したりしていくことが大切である。

(7) 「指導助言の在り方」の視点から

- 一人一人の教員の実態を理解し、個別に話し合ったり、言葉かけをしたりして意欲の喚起と持続に配慮することが大切である。
- 外部講師を招聘して、教員のニーズに応じていくことも大切である。

(8) 「その他」の視点から

- 管理職者の多くは、一人一人の教員の「積極的な研修」を望んでいる。
- 教員としての資質・能力を、「いつ」「どこで」「どのようにして」高めるかは、いずれの校種においても重要な課題となっている。

2 教務主任、研修主任(以下、主任と表現)からみた教員研修の実態

【調査結果】

主任を対象にした今回の調査は、前回の管理職を対象に行った実態調査をもとに分析の視点を絞って、校内研修を中心に聞き取り調査を行った。その結果は、次ページの表のとおりである。